

ΚΟΣΜΟΣ

特集 **A君がAをとれた理由**
ワケ
 (文献・資料の探し方)

No.116 1997 冬

巻頭・エッセイ	1
研究室の窓	2
図書館紀行	4
図書館引き出し帳	5・8
特集	6・7
ただいま貸出中／	9
カウンター発9時	9
図書館アラカルト	10

巻頭エッセイ

自由、愛情

横川 伸

生命誠宝贵、
 愛情价更高；
 若为自由故，
 二者皆可抛。

这是匈牙利诗人裴多菲的诗。我最初看到它是在高中的语文课本上，是鲁迅在《为了忘却的纪念》中提到的。

这一首五言的中国古体诗，读起来声韵铿锵琅琅上口，我一下就把它记住了！但看它的内容确实是出自西洋人之手。我望着这二十字，顿时像是着了魔似的。我欣赏它的内容，喜欢它的形式；从中领悟到了语言的神秘，也窥见到了翻译的奥妙。不久我找到了一本《裴多菲诗选》，才知道这首诗的题目叫《自由、爱情》。两者一比较，我更喜欢上了“二者皆可抛”。同时发现这首译诗，与其说它是翻译不如说它是新的创作，于是乎又感慨了许久。我到现在也不懂匈牙利的语言，但可以说是这首裴多菲的诗使我对翻译产生了兴趣。

那一本《裴多菲诗选》仿佛记得是棕色封皮的大三十二开本，可惜译者和出版社都忘了。现在我手头只有孙用的同名译本（人民文学出版社 1979年），他是这样翻的：

自由，爱情！
 我要的就是这两样。
 为了爱情，
 我牺牲我的生命；
 为了自由，我又将爱情牺牲。

后来这首诗在我议论翻译时常常用来举例，平时就很少记起它了，只是结婚时在脑中一闪而过，最近却频频想起它，它好像要跟我诉说些什么似的。

〈大意〉——自由、愛

生命 誠に 宝貴し／愛情 価 更に高し／若し 自由の爲の故ならば／二者 皆 抛
 つべし（訳は学習研究社「魯迅全集」6巻による）

この詩は魯迅が「忘れんがための記念」で紹介したハンガリーの詩人ペテーフィの詩である。高校でこの訳を初めて目にしたとき私はことばの神秘さに驚いた。

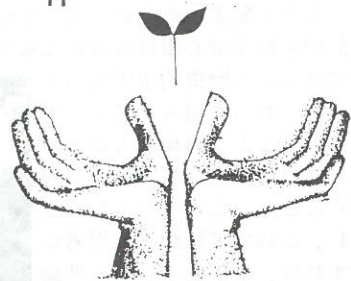
後に「ペテーフィ詩選」を読んでこれが「自由、愛！」という詩であることが分かった：
 愛よ 自由よ／地上における最愛のものよ／われ愛のために／生の炎をささげ／われ自由のために／わがその愛をささげん（今岡十一郎訳「世界名詩集大成」15巻平凡社）
 この二つの訳詩の比較が私の翻訳研究の始まりであった。

(よこかわ・しん 教養課程中国語助教授)

読書案内／

学習研究社版『魯迅全集』（白山開架923.7:RJ:28, 朝霞開架928:RJ)

平凡社『世界名詩集大成』（白山電動908.1:S)





災害から学ぶということ

北原 糸子

従来から災害史は研究関心のひとつであったから、阪神大震災をきっかけに、昨年度・本年度と引き続いて、災害と社会、災害と情報といったテーマで社会学部社会史（日本史）の講義をしてきた。社会学を専攻する学生に学問対象と方法を異にする歴史学の立場から講義するということについては、多少の配慮が必要だと考えていた。これまで社会史の授業で心掛けてきたことは、史料に基づいてどういう歴史的事実を引き出し、それらを組み立てて、当時の社会をどう再現するか、つまり素材・方法とも明示的に展開するということであった。しかし、これでは社会学的思考からすれば、まず要求される理論的枠組というものが見えにくい。あるいは学生に歴史学という学問は過去の事実を探しているだけではないのかといった思いを抱かせないともかぎらない。

しかし、阪神大震災を同時代の体験として共有する者同士が、その体験をもとに災害を考えてみようとする試みは、50代後半の教師である私と、20代前後を中心とする学生たちとの間の壁を一挙にないものにし、また学問の対象と方法においても壁の存在を感じさせない共通認識が生まれたように思う。

1995年度の授業に参加した学生達は極めて強い危機意識を持っていた。阪神大震災から3ヶ月を経ない新年度当初は、予想もなかった震災に被災地復興のプログラムも示されず、避難所に仮住いする人の数も15万人を下らない段階であったから、当然といえば当然であろう。しかし、彼らの危機意識は、そうした災害の惨禍をテレビその他のメディアを通して目にし、耳にしたというだけのものではなかった。高度な機能を備えた最先端のビルを抱える大都市が一挙に崩壊した様は、繁栄の恩恵を所与のものとし受け留めてきた若い人

達に、自分達の置かれている社会的基盤そのものの脆さ、危うさを感じさせたに違いない。

明治20年代わが国は連続して大災害に見舞われた。1888年の磐梯山噴火、7000人の死者を出した1891年の濃尾地震、2万2000人の死者を出した1896年の三陸津波など大災害が目白押しに押し寄せた。これだけの災害から人びとはどう立ち直ったのか、村や街はどう復興したのか、政府は災害

復旧にどのような知恵と力を出したかなど、私の講義は近世から近代にかけて災害からの社会的立ち直りを考えるものであるが、まだ全体が扱ったわけではない。

本学の図書館にはこうした研究に手掛かりを与えてくれる材料がある。そのひとつに明治14年創刊の「東洋学芸雑誌」がある。欠本はコピーで補われ、創刊号から見る事ができる。当時の科学系学術総合雑誌といったらよいであろうか。井上円了も中国思想についての論客として、第9冊から登場する。この雑誌には、それまでの地震計の実験値ではなく実際の災害に遭遇して政府や学者が必死で集めたデータに基づく分析や考察が次々と掲載された。また、当時の社会状況は、災害現場の写真でひと儲けしようとする写真師や新聞記者が災害現場に蝟集し、新聞の義援金募集に多くの人びとが呼応するというものであった。近代国家として漸く歩み出した矢先の災害には、それなりの新しい社会的対応も編み出されていたのである。

学生達に課した災害に関するレポートからは、阪神大震災の共時体験が過去の災害へのリアルな分析眼を養ったことが伺える。過去の災害は過去のものではなくなったのである。このことは私においても同じことであった。

(きたはら・いとこ 社会学部社会学科非常勤講師)



積めるだけの救援物資をのせて、急ぐバイク(21日、甲子園で)

「生きる力」と「ゆとり」

大森 正



21世紀を展望した教育改革を審議している第15期中央教育審議会（中教審）が、1996年7月19日に第1次答申を奥田幹生文部大臣に提出しました。学校5日制を「21世紀を目途」に完全実施する方針が明記され注目されています。中教審というのは、20ほどある文部大臣の諮問機関のうち唯一法律で設置が定められた審議会で、その答申は今後の教育改革に大きな影響力を持つものです。

この第1次答申のキー・ワードになっているのが「生きる力」と「ゆとり」です。「生きる力」が書かれているくだりは次のところです。「我々はこれからの子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考へた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を『生きる力』と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた。」

この「生きる力をはぐくむ」という言葉は、新聞の社説や教育雑誌の記事などを読むと大体好意的に受けとめられているようです。中には「我々が昔から主張していたことを文部省もやっと認めざるを得なくなった」などと我が田に水を引いている人たちもいます。

ところで根が素直でない私はどうもこの「生きる力」という言葉がひっかかります。「生きる力」のない人はいないはずですが、「生きる力」がなければとくに死んでいるはずですから。これは屁理屈だとしても、上に書いてある「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」があることが「生きる力」が強いということなのでしょう。しかし、そう考へても「生きる力」に強いだの弱いだののあるのでしょうか。弱くたってちゃんと生きているのだからいいじゃないか、という気がするのです。「生きる力を育ててあげましょう」なんて言われ

ると、なんだか余計なお世話だという感がぬぐえません。

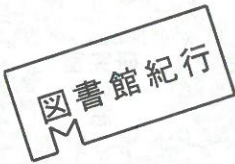
教育関係の文章というのは、概してこういう歯の浮くような「きれいなことば」が散りばめられているのです。読んでいて恥ずかしくなるような文章がたくさんあります。実は、私の専門は教育学です。だからそういうのを読まなければならないのですが、恥ずかしい学問だなあ、と思うことしばしばです。

次に「ゆとり」ですが、こう書いてあります。『『生きる力』をはぐくんでいくために、学校にも、家庭や地域社会を含めた社会全体にも『ゆとり』が重要であるとする。今、子供たちは多忙な生活を送っている。そうした中で『生きる力』を培うことは困難である。…中略…子供たちに家庭や地域社会で過ごす時間、すなわち、子供たちが主体的、自発的に使える時間をできるだけ多く確保することが必要である。そうした『ゆとり』の中で子供たちは、心の『ゆとり』を持つことができるようになるのである。

素直でない私も「ゆとり」については文句ありません。子供も先生も本当に忙しい。「数学」の授業が終わって10分たつと「体育」があって10分たつと「音楽」があって10分たつと今度は「社会」があって、また10分たつと「英語」があって、これが朝の8時半から午後3時くらいまで続くのです。その後は部活。その後は塾。「生きる力」は自前でなんとか調達しますので「ゆとり」だけはなんとかしてください、というのが私の文部省に対する要望です。

(おおもり・ただし 文学部教職課程教授)





《Ostasiatisches Seminar
der Universität Zürich Bibliothek》

チューリヒ大学東洋学部図書館紹介

安立 眞理子



Ostasiatisches Seminar der Universität
Zürich Bibliothek.

日本語では「チューリヒ大学東洋学部図書館」と訳していますが、学部よりは少し小さい単位で、東アジア学研究所とでもいうほうが近いかなという気がします。なにしろ中国学科と日本学科と二つの学科しかありませんので。

その東洋学部図書館には、日本学科所属の日本語図書部門、中国学科所属の中国語図書部門、および日中を中心に東アジア全域をカバーするアジア関係欧文図書部門の3つがあります。ほかに、韓国・朝鮮語図書部門もあるのですが、本体の学科が廃止されてしまったために、現在は日本語図書書架の一隅で休眠状態です。

このうち中国語図書部門は東洋学部そのものが、まず中国学科の設立から出発したという伝統もあって、学科としての規模も日本学科に較べるといくらか大きく、図書館の蔵書数も約18000タイトル60000冊と日本語図書の約6000タイトル18000冊に較べて、ほぼ3倍あります。欧文図書部門が約20000冊程です。

これまで、それぞれの学科の講座内容も人文科学系が中心でしたので、図書館の蔵書でも同様の分野が主要な位置を占めてきました。

しかし、最近是人々の関心が伝統的な中国学や日本学ではあまり重視されなかった政治や経済、あるいは現代の社会問題に向けられるようになってきて、講座内容にも変化が見られ、購入図書の傾向も徐々に変わりつつあります。

ことにドイツ語圏スイスでは唯一の東アジア専門図書館ですので、大学の一学科附属図書館でありながら、公共図書館のサービスやスイスの東アジア情報センター的役割も期待されて、「そういう分野のものは置いていません」では済まなくな

てきました。

もっとも、全てに対応するなんて、予算からいっても人手（一応6人働いていますが、時間数からは3人半です。）からいってもとてもできない相談ではありますが…。

かつては、日中何れもごく小規模な学科で、教授以下の教員・職員も学生もお互い知らない人はいない状態でした。建物も小さくて、図書資料も講義の行われる学科教室内の書架に置かれていましたし、その利用も図書の貸し出しも自由そのものでした。

現在では、もう顔もわからないほどに学生数も増え、外部の一般利用者にも完全に解放されていますし、新しく引っ越した建物では図書館の内部は三層になって、職員が館内はもとより出入口を見通すこともできないのですが、初期の伝統そのままに、どのようなチェックもありません。

誰でも全開架式の館内に自由に出入りできますが、蔵書の特殊な性格も幸いしてか、大学内の他の厳重に管理された図書館に較べて、なくなる本がより多いということもないようで、ときどき教職員会議で問題にはなるものの、毎回、もう少し様子を見ようということに落ちつきます。

いつか行方不明になる書籍や雑誌の量が、許容限度を超える日が来るのか、無条件の信頼がいつまで続けられるか、ちょっとした賭です。

(あだち・まりこ 本学卒業生)

Address

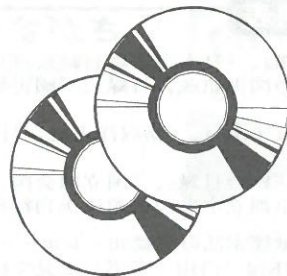
Japanische Bibliothek
Ostasiatisches Seminar der Universität Zürich
《住所》
Zürichbergstr.4
CH-8032 Zürich
Switzerland

《電子メール》
E-mail: adachi@oas.unizh.ch

< 朝 霞 >

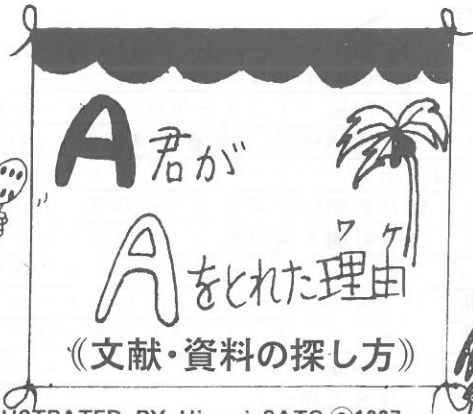
【1】 J-BISC (明治期/1948年~)	/	便利度 : 75点
【2】 朝日新聞CD-ROM版 (1985年版~1995年版)	/	便利度 : 80点
【3】 朝日新聞見出しデータベース (戦後50年間:1945~1995)	/	便利度 : 80点
【4】 朝日新聞縮刷版見出しデータベース (1993年版)	/	便利度 : 80点
【5】 7 years. 朝日新聞総合索引 (1985年版~1991年版)	/	便利度 : 75点
【6】 7 years. 朝日新聞人名索引 (1985年版~1991年版)	/	便利度 : 75点
【7】 毎日新聞CD-ROM版 (1991年版~1995年版)	/	便利度 : 80点
【8】 日本経済新聞CD-ROM版 (1990年~1995年版)	/	便利度 : 80点
【9】 日本経済新聞インデックス版 (1990年~1994年版)	/	便利度 : 75点
【10】 日経産業・金融・流通新聞CD-ROM版 (1994年~1995年版)	/	便利度 : 80点
【11】 雑誌記事索引 (1985年~)	/	便利度 : 80点
【12】 図書内容情報: CD-BOOK (1986年~1992年)	/	便利度 : 70点
【13】 雑誌記事情報: CD-MAGAZINE (1981年~1992年)	/	便利度 : 80点
【14】 Global Books In Print Plus (1996年)	/	便利度 : 50点
内 容 : 英国、豪州も含む既刊、新刊本情報CD-ROM版。		
【15】 学術雑誌総合目録 (1989年)	/	便利度 : 80点
【16】 新現代日本執筆者大事典 (1983年~1992年)	/	便利度 : 40点
【17】 現代日本人名録/新訂 (1994年)	/	便利度 : 40点
【18】 科学技術文献速報/金属工学・鉱山工学・地球工学(1995~)	/	便利度 : 50点
【19】 法律判例文献情報 (1982~1994)	/	便利度 : 70点
【20】 経済・産業雑誌記事情報/CD-Joint (1995年)	/	便利度 : 70点
【21】 企業・ビジネス情報95 (日経ビジネスデータベース)	/	便利度 : 70点
【22】 点字図書・録音図書全国総合目録 (1980年以前~1996年)	/	便利度 : 70点
【23】 翻訳図書目録/芸術・文学編 (1945年/1992年)	/	便利度 : 50点
【24】 学術雑誌総合目録/CD-ROM版 (1989年)	/	便利度 : 80点
【25】 八代集/日本古典文学大系CD-ROM版 (1995年)	/	便利度 : 60点
【26】 模範六法 (1990年)	/	便利度 : 80点
【27】 経済白書 (平成6年版)	/	便利度 : 80点
【28】 新編国家大観 (1996年)	/	便利度 : 60点
【29】 理科年表 CD-ROM版 (大正14年~平成8年)	/	便利度 : 40点
【30】 岩波電子日本総合年表 (1993年)	/	便利度 : 60点
【31】 現代用語の基礎知識 (1989年)	/	便利度 : 80点
【32】 12か国語電子辞書/CD-WORD (1989年)	/	便利度 : 80点
【33】 世界美術辞典 (1992年)	/	便利度 : 40点
【34】 世界大百科事典 (1988年)	/	便利度 : 80点
【35】 新潮文学倶楽部/CD-ROMマルチメディア文学辞典 (1994年)	/	便利度 : 40点
【36】 AURORA/青山学院大学図書館蔵書目録 (1995ed.)	/	便利度は使う人次第
【37】 As you like it/天正大学図書館蔵書目録 (1994年)	/	便利度は使う人次第

*以上、1997年2月現在の所蔵。今後も新規・継続で導入予定。

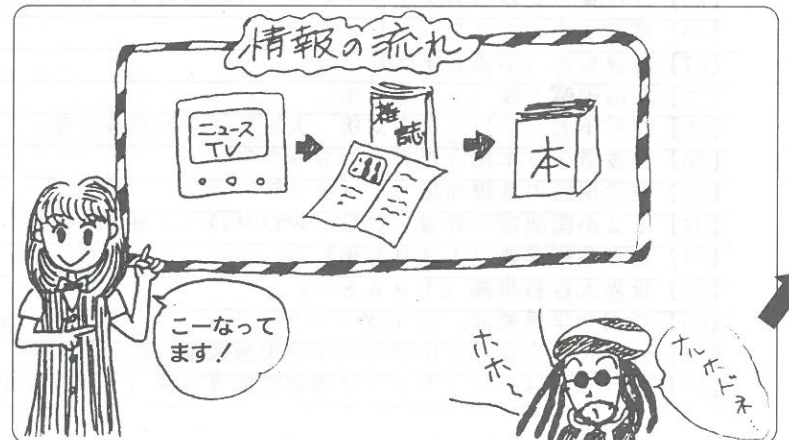
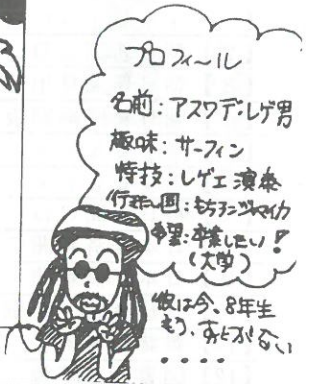


(P.8からの続き)

特集



ILLUSTRATED BY Hiromi SATO ©1997



文献探索のための早見表

さがす・サガス・探す

- | | |
|--------------|--|
| 探す <和書> → 見る | 『出版年鑑』、『日本書籍総目録』、『日本全国書誌』
『国立国会図書館蔵書目録』、『國書総目録』、『中国学芸大辞典』 |
| 探す <洋書> → 見る | 『Books in Print』、『新収洋書総合目録』、『The National Union Catalog』 |
| 探す <雑誌> → 見る | 『学術雑誌総合目録』、『国立国会図書館所蔵国内(外国)逐次刊行物目録』、『東京都立中央図書館逐次刊行物目録』 |

※これより詳しく知りたい方は、『文献探索法の基礎96-レポート・論文作成・調査必携マニュアル-図書、雑誌、新聞情報編』R015.2:MK:2 (白山 参考)を見てね。

ぼくは○×△が
好きだから
これで
書こっかなー



まずはその本が
東洋大学にあるか、
コンピュータ検索
してみよう。

●東洋大学に……

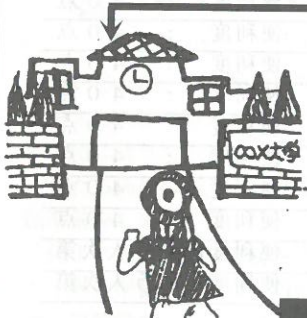
ある!



借りて
いきます

ない!

所蔵調査
おねがい
します。



他大学にその本を
閲覧しに行く。

ありがとう



文献複写をとりよせ、
数日後、A君は
資料をGet!

さあ!

まとめるかっ



このことに
気をつけて書けば
ナイスですよ!



【出題者の立場に立ってこのテーマについて考えてみる】

1. 出題者は何をネラっているかを考える。
2. 出題者、採点者が自分の書く文をどう読むかを考える。
3. 出題者、採点者が自分の書く文でどう反応するかを考える。

【文章のテクニク】

1. 起承転結
 2. 文章ははじめの一文でできる。
 3. 結び方のコツ
1. 起一何を論じようとするか主題をズバリ提出
承一それを受けて、より詳しく述べる。
転一角度をかえて別の方向からの見方をする。
結一以上を総合して筆者の主張を打ちだす。
 2. 文章ははじめの一文で決まる。
「言論の自由」というテーマに対して、
「言論の自由ーそれは…」という入り方
(課題の言葉に飛びついて、そのまま繰り返す)、
「言論の自由とは、一体何であろうか」(自分で
自分に出題し、テーマの解説で終わるものでは、出
題者に「またか」とあきらまれる。)
理想は「言論の自由」という言葉が1つも出て
こなくても、内容が伝わるものがよい。
 3. 結び方のコツ
だめおし「従って、私はこう信じるものであり…
声を大にして訴えたい」はやめる。
書きだしと関連づけて結ぶとよい。

その年の春、A君はAをGetし、
無事卒業したのであった。めでたしめでたし♡



図書館引き出し帳

東洋大学附属図書館 所蔵CD-ROM一覽

図書館には図書、雑誌のほか、みなさんのニーズに答える様々なCD-ROMを用意してあります。リストを参考にして、ぜひ活用してくださいね。なお、便利度は筆者の個人的な採点ですので、実際使ってみてあなたが評価してみてくださいね。

< 白山 >

【1】 J-BISC (明治期/1948年～)	／ 便利度 : 75点
内容 : 国立国会図書館の所蔵目録	
【2】 N-BISC	／ 便利度 : 70点
内容 : 国内の新刊書誌情報。	
【3】 朝日新聞CD-ROM版 (1985年版～1995年版)	／ 便利度 : 80点
【4】 朝日新聞見出しデータベース (戦後50年間)	／ 便利度 : 80点
【5】 毎日新聞CD-ROM版 (1993年版～1995年版)	／ 便利度 : 80点
【6】 日経新聞CD-ROM版 (1990年～1995年版)	／ 便利度 : 80点
【7】 日経産業・金融・流通新聞CD-ROM版 (1994年～1995年版)	／ 便利度 : 80点
【8】 雑誌記事索引 (1990年1月～)	／ 便利度 : 80点
内容 : 国立国会図書館で作成している雑誌記事索引のCD-ROM版で、執筆者 論文名・論文中の言葉・雑誌名等で検索できる。	
【9】 有価証券報告書総覧 (1993年11月期～1996年10月期)	／ 便利度 : 85点
内容 : 一部、二部、地方上場会社の財務諸表や会社情報。	
【10】 リーガルベース (判例版/コメント版/法令版)	／ 便利度 : 90点
内容 : 判例の全文、解説、法令データベースから構成される総合データベース。	
【11】 BOOKS IN PRINT	／ 便利度 : 50点
内容 : 米国の既刊、新刊本情報として世界的に有名なBOOKS IN PRINTのCD-ROM版。	
【12】 ULRICH'S PLUS	／ 便利度 : 40点
内容 : 海外の定期刊行物 (雑誌) の書誌情報。	
【13】 季刊書誌ナビ	／ 便利度 : 40点
【14】 阪神大震災関連記事データベース (1995.1.18～10.31)	／ 便利度 : 40点
【15】 Sociofile	*学部へ貸出中 便利度 : 40点
【16】 LISA	*学部へ貸出中 便利度 : 40点
【17】 ERIC	*学部へ貸出中 便利度 : 40点
【18】 PsycLIT	*学部へ貸出中 便利度 : 40点
【19】 Social Work Abstract	*学部へ貸出中 便利度 : 40点
【20】 LIBRARY LITERATURE	*学部へ貸出中 便利度 : 40点
【21】 AURORA/青山学院大学図書館蔵書目録 (1996ed.)	／ 便利度は使う人次第
【22】 As you like it/大正大学図書館蔵書目録 (1994年)	／ 便利度は使う人次第

< 工学部 >

【1】 J-BISC (1984年～)	／ 便利度 : 75点
【2】 N-BISC	／ 便利度 : 70点
【3】 朝日新聞CD-ROM版 (1993年版～1995年版)	／ 便利度 : 80点
【4】 雑誌記事索引 (1990年1月～)	／ 便利度 : 80点
【5】 模範六法 (平成8年版)	／ 便利度 : 80点
【6】 BOOKS IN PRINT	／ 便利度 : 50点
【7】 Biochemistry & Biophysics	／ 便利度 : 50点
【8】 科学技術文献速報 (1995年版)	／ 便利度 : 70点
内容 : 機械工学、電気工学、他 全8種。	

た だ い

教師をめざす人必読!!
『米百俵』

貸 出 中 !

山本有三著

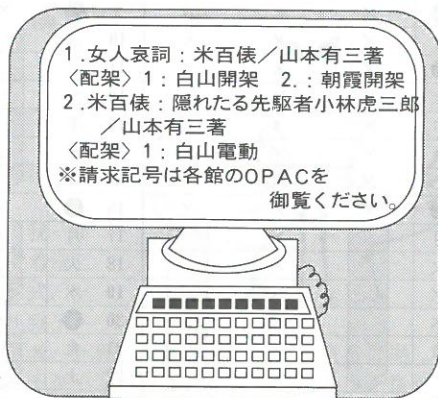
この本は、戯曲である本文と、その主人公についての著者の講演とそえがきからなっている。著者山本有三について述べることは省略し、いきなり内容に入る。時、明治3年頃、場所、えちごの国長岡藩。戊辰戦争で焼け野原になり貧乏のどん底にあえぐ状況に、友藩の三根山藩から米・百俵が贈られる。藩士達は本当に喜んでその米をあてにするが、大参事小林虎三郎は一粒も分けず、それを基に学校を造ってしまうという話である。

ストーリーはそれだけのことだが、この本はわが国の現代の教育を取り巻く状況に、含蓄のある示唆を与えてくれる。その1、戯曲に出ないが、小林虎三郎と河井継之助(『峠』(司馬遼太郎著)参照)を対置させ、“国”と教育の関わりを考えさせてくれる。その2、大東亜戦争の物資困窮のおり、物をつくる以上に「人物をつくれ」が大事だという。物の溢れる

今、この精神はどうなるだろう。その3に、そえがきで述べられるこの学校の開放制教育である。これがえちご出身学祖円了の教育理念となる。

近年、学校教育についての警鐘がかましい。この本の教育哲学が、それにひとつの解決を与えてくれるものと信じ、皆さんに一読を推奨したい。

1. 女人哀詞：米百俵／山本有三著
〈配架〉1：白山開架 2：朝霞開架
2. 米百俵：隠れたる先駆者小林虎三郎
／山本有三著
〈配架〉1：白山電動
※請求記号は各館のOPACを御覧ください。



カウンター発9時



「おはようございます!」

(工学部図書館日誌より)

寒い冬の朝、図書館の玄関前で、利用者が数人待っていました。この人たちは、私が鶴ヶ島駅に着いた時に一緒に降りた人たちです。

私たち係員は限られた時間の中で、ただひたすら開館準備をします。

何よりも真っ先に暖房を入れます。

1階の準備。新聞は、当日と3日前に分けておきます。視聴覚コーナーでは、前日の返却された、CD・VT等を元の場所に戻します。

2階の準備では、まず、前日まで返却された本を返却台の上に、請求記号順に並べていきます。そして、最後には、TRITON-OPAC4台を起動させます。

「おはようございます!」

利用者からのこの一言が今日一日やる気を起こさせてくれます。

“明るく元気なあいさつ” 本当にたいせつに思う今日この頃です。

(97.1.16発)



卒業後も

図書館が利用できます!

- * 用意するもの：卒業・修了証明書
またはその写し
- * 貸出冊数：3冊
- * 貸出期間：4週間
- * 有効期間：2年間(更新可)

※図書館利用カードの申し込みは

各図書館カウンターまで



図書館アラカルト

LIBRARY CALENDAR (白山・朝霞・工学部)

※入試・蔵書点検等で閉館日が多くなりますが御了承ください。詳細は各館まで!!

お知らせ

卒業後も図書館が利用できます。詳細はP.9を御覧ください。

2 月				3 月			
	白山	朝霞	工学部		白山	朝霞	工学部
1 土	閉	閉	閉	1 土	閉	×	×
2 日	×	×	×	2 日	×	×	×
3 月	閉	閉	閉	3 月	閉	×	×
4 火	閉	閉	閉	4 火	閉	×	×
5 水	×	×	×	5 水	×	閉	×
6 木	×	閉	閉	6 木	×	閉	×
7 金	×	×	閉	7 金	閉	閉	×
8 土	×	×	閉	8 土	閉	閉	×
9 日	×	×	×	9 日	×	×	×
10 月	×	×	×	10 月	閉	×	×
11 火	×	×	×	11 火	閉	×	×
12 水	×	×	×	12 水	閉	閉	×
13 木	×	×	×	13 木	閉	閉	閉
14 金	×	×	×	14 金	閉	閉	閉
15 土	×	×	×	15 土	閉	閉	閉
16 日	×	×	×	16 日	×	×	×
17 月	閉	×	閉	17 月	閉	閉	閉
18 火	閉	×	閉	18 火	閉	閉	閉
19 水	閉	×	閉	19 水	閉	閉	閉
20 木	閉	×	閉	20 木	×	×	×
21 金	閉	×	閉	21 金	閉	閉	閉
22 土	閉	×	閉	22 土	閉	閉	閉
23 日	×	×	×	23 日	×	×	×
24 月	閉	×	閉	24 月	閉	閉	×
25 火	閉	×	閉	25 火	×	×	×
26 水	×	×	×	26 水	閉	閉	閉
27 木	×	×	×	27 木	閉	閉	閉
28 金	閉	×	閉	28 金	閉	閉	閉
				29 土	閉	閉	閉
				30 日	×	×	×
				31 月	閉	閉	閉

× = 閉館

〈白山 (03-3945-7325)〉

通常開館時間

平日：9：00—21：30
土：9：00—20：00

2・3月の開館時間

月～金：10：00～17：00
(2/3.4のみ9：00～21：30)
土：10：00～13：00

春休み貸出(除雑誌)

貸出開始：1月28日(火)

〃 冊数：図書5冊

視聴覚資料3点

返却期限：4月14日(月)

(*卒業、修了予定者は
3月22日(土)まで)

〈朝霞 (048-468-6329)〉

通常開館時間

平日：9：00—18：15
水：9：00—17：00
土：9：00—16：00

2・3月の開館時間

月～金：9：00～17：00
(2/3のみ9：00～18：15)
土：9：00～13：00
(2/1のみ9：00～16：00)

春休み貸出(除雑誌)

貸出開始：1月21日(火)

～3月31日(月)

〃 冊数：図書5冊

視聴覚資料3点

返却期限：4月15日(火)

(*卒業予定者は3月22日(土)まで)

〈工学部 (0492-39-1321)〉

〈建築資料室 (0492-39-1432)〉

通常開館時間

平日：9：00—18：00
土：9：00—16：00

2・3月の開館時間

月～金：9：00～17：00
土：9：00～13：00

春休み貸出

貸出開始：1月27日(月)

～3月22日(土)

〃 冊数：5冊

返却期限：4月9日(水)

(*卒業予定者は
3月14日(金)まで)

2月といえばバレンタインデー。チョコレート贈る女性はもちろん、もらう男性もそわそわする時期ですね。

日本では女性から男性にチョコレートを贈るのが主流ですが、外国では男性が女性にお花を贈るようです。

「チョコレート」と言っても奥が深い。図書館にあるチョコレートの本を読んでみるのはいかがでしょうか？

『チョコレートの博物誌』
《白開架》

『チョコレートの科学』
《白朝開架》

『チョコレート・ココア製造の理論と実際』
《白開架》

『最新フランス菓子』
《白開架》

※請求番号は各館OPACを御覧ください。